

下肢静脈瘤

足、特に膝から下の血管が浮き立って気になっているかた、夜になると足がだるい、むくむ、つるなどの悩みをお持ちのかたはいらっしゃいませんか。

今回は、そのようなかたがお持ちの可能性のある「下肢静脈瘤」についてご紹介します。

【下肢静脈瘤とは】

下肢静脈瘤の“瘤（りゅう）”には“こぶ”という意味があります。足の静脈（心臓に戻る血管）がこぶのようにボコボコと膨らんだものが下肢静脈瘤です。多くの場合は皮膚のすぐ下を走る静脈の逆流防止弁が壊れることによって起こります。この弁が壊れると血液の逆流が起こり足の静脈に血液が停滞し“こぶ”が生じます。女性に多く、妊娠・出産を契機に発症・増悪することがあります。また、立ち仕事をしているかたに多く見受けられます。

【下肢静脈瘤の症状】

無症状のかたもいらっしゃいますが、足がだるい、むくむ、熱い、かゆい、痛いといった症状が見られます。特に夕方、夜にかけ症状が出現・増悪します。また、就寝時の“こむらがえり”も典型的な症状です。悪化すると、湿疹、色素沈着（皮膚が黒くなる）、皮膚潰瘍（皮膚がえぐれる）などの症状が出てくることがあります。

【下肢静脈瘤の治療法】

治療法には、①圧迫療法、②硬化療法、③手術療法があります。圧迫療法（弾性ストッキングなど）は進行防止、症状軽減が目的であり、“瘤”を取り除く治療ではありません。一方、硬化療法（注射）と手術療法（ストリッピングなど）は原因となる逆流を止め、瘤を取り除くことを目的として行います。きれいな足を取り戻すには、手術療法と硬化療法を単独もしくは組み合わせて行うのが一般的です。

下肢静脈瘤かもしれないとお悩みのかたは、一度、心臓血管外科専門医の受診をお勧めします。

（このコラムは市立病院 病院総務課 電話（260）0111 が担当しています。）